

心理検査活用リーダー研修プログラムの開発

－A県教育委員会主催研修講座『i-check』の活用について』実施を踏まえて－

Training Program Development for Leadership in Psychological Test Application

－Based on Teacher Training by the Board of Education of Prefecture “A” Concerning
“i-check” Application－

住本 克彦

Katsuhiko SUMIMOTO

要旨 (Abstract)

本稿では、住本が、A県・県立学校人権教育サポート事業として、講師を務めた際、「心理検査活用リーダー研修プログラム」(【プログラム構成】①i-check のコンセプトについて ②カテゴリー構成と個々の質問について ③結果帳票の種類とその見方について ④実際の分析例 【主催】A県教育委員会 【事業名】20XX年度心理検査活用リーダー研修講座 【テーマ】『i-check』の活用について－『i-check』の活用のポイントと具体的な手立てについて－ 【講師】住本克彦(『i-check』監修・編著者))を実施した内容をまとめたものである。当該プログラム参加者への聞き取り調査後、以下の点が示唆された。(1)教師の観察だけではなく、心理検査の必要性を実感した(心理検査の活用が不可欠)。(2)クラスの実態把握(学級経営)に有効(3)学級の成員個々の実態が把握でき個人指導に活用できる。(4)各「学校」「科」の実情に合った研修会(研修内容)実施を望む(専門家・講師の招聘)(5)心理検査『i-check』の特徴・見方が理解できた(研修内容を具体的に提示、事例提示、双方向型、専門的視点からの手立ての提案等)(6)生徒一人一人を多面的に理解することの大切さ 等。この結果を持って、心理検査活用リーダー研修プログラムの開発に資する。

キーワード：心理検査、「i-check」、学級経営、教員研修、生徒指導、教育相談

I. はじめに

生徒の問題行動が、多様化、複雑化する現況にあって、生徒の内面を理解する『心理検査』の活用の重要性が増している。それは、生徒の問題行動の未然防止はもちろん、学級経営の手段として活用したり生徒理解の補完として活用したりして、つまり、学級を客観的、視覚的に把握することにより、教職員間の協働性や同僚性を高めることにも繋がるのである。教職員の観察もちろん大切であるが、これに心理検査結果を加えることで、より正確な生徒理解に資することができるのである。

本稿では、住本が、A県・県立学校人権教育サポート事業として、講師を務めた際の「心理検査活用リーダー研修プログラム」(【プログラム構成】①i-check のコンセプトについて ②カテゴリー構成と個々の質問について ③結果帳票の種類とその見方について ④実際の分析例 【主催】A県教育委員会 【事業名】20XX年度心理検査活用リーダー研修講座 【テーマ】『i-check』の活用について－『i-check』の活用のポイントと具体的な手立てに

ついて一) 資料を提示する。参加者は、A 県立学校生徒指導・教育相談担当者等 20 名であった。

当該研修後、参加校全てが、満足した(4 件法)と回答。その後の聞き取り調査において、特筆すべきは、「i-check をすることで、教師が学級づくりの振り返りや改善への貴重な資料になる。」「学年団や、生徒指導部会、教育相談部会等での検討する際の共通の資料になる。」「保護者や生徒に話す際のエビデンスになる。」「受検生徒が『自分自身の今としっかり向き合える得がたい時間になった。』との感想を述べたことがあり、検査に向かう時間は、生徒にとって、自身の人生の在り方生き方を考える貴重な時間となっている。」「検査結果が出てから、今後の手立て等、講師(住本)として指導していただけることがうれしい[参加 5 校から]。」等のフィードバックを得たことが挙げられる。これらのことを今後の当該プログラム開発に活かしたいと考える。

II. 目的

当該研修参加者の質問紙・聞き取り調査結果を分析し、「心理検査『i-check』活用リーダー研修プログラム」開発に資する。

III. 方法

A 県主催の心理検査活用リーダー研修講座【主催】A 県教育委員会【事業名】20XX 年度心理検査活用リーダー研修講座【テーマ】『i-check』の活用についてー『i-check』の活用のポイントと具体的な手立てについてー【日時】20XX 年 X 月 X 日 13:45~15:45【場所】A 県教育センター【講師】住本克彦〔『i-check』監修・編著者〕において、「心理検査活用リーダー研修プログラム」を実施、参加者(対象:A 県立学校生徒指導・教育相談担当者等 20 名。複数回答有)から研修実施後の質問紙・聞き取り調査を実行し、その結果を検討(カウンセラー有資格者複数名が KJ 法で整理)する。

IV. 「心理検査活用リーダー研修プログラム」内容

(1) 子どもの内面を知る心理検査「i-check:アイ・チェック」について

総合質問紙「i-check:アイ・チェック」(図 1・図 2 参照:『i-check』では、自己肯定感や喫緊の課題である「いじめのサイン」、「対人ストレス」などの状況を確認でき、複数のカテゴリーで構成された総合質問紙であるため、1 つの視点だけでなく、複合的な視点で、学級や児童生徒〈小学生版・中学生版・高校生版〉の実態に深く迫ることが可能である。梶田・住本、2020)の活用によって、教師による、児童生徒の表情、態度(持ち物、服装)、言動の観察、交友関係等の把握に加えて、より正確な児童生徒の内面理解や学級の実態に迫ることができる。

※20XX 年度心理検査活用リーダー研修講座(B 県 県立学校人権教育サポート事業・講師:住本)での「i-check」実施校における教職員の感想(効果)

- ①レーザーチャートで、学級の実態が視覚として把握しやすい。
- ②教師の観察との併用ができ、より正確な児童生徒理解に資する。
- ③「いじめのサイン」の項目で、いじめの早期発見ができる。
- ④「いじめのサイン」の項目で、人権教育推進の学校・学級の指導の評価ができる。
- ⑤散布図で「いじめ」や「疎外感」の学級の実態が把握できる。
- ⑥児童生徒個人の詳細な実態を把握できる。
- ⑦各学期実施の結果比較により、教師の教育実践を振り返ることができる。
- ⑧専門家の適切な指導助言が受けられる。
- ⑨受検そのものが児童生徒にとっての自己理解に繋がる 等の効果が認められる。

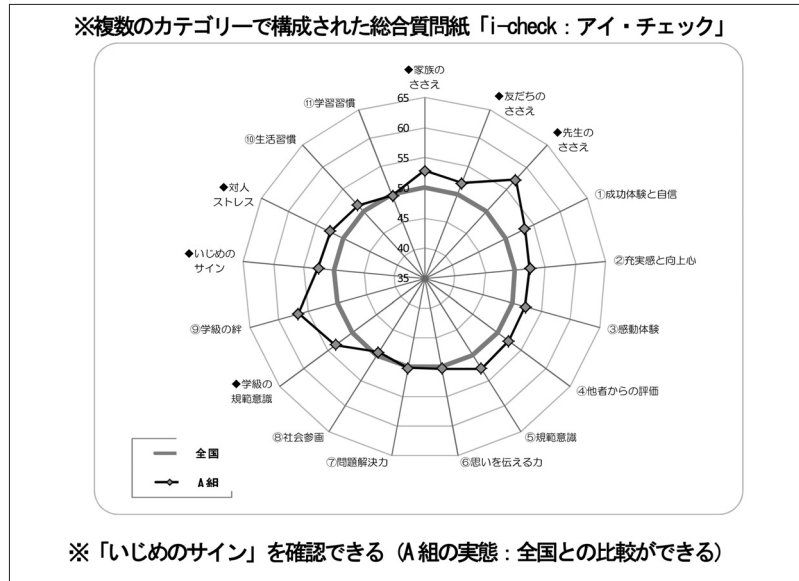
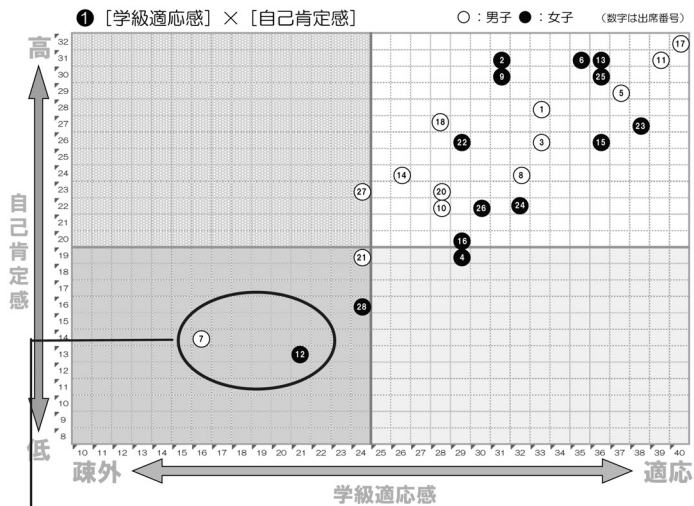


図1 『i-check』レーザチャートによる学級実態把握

※上の図は『i-check』散布図「いじめ」「疎外感」の現状を把握できる。



※上の図の散布図上で特に配慮を要する児童生徒については「回答結果一覧」を参照して、個々の質問に対する回答状況を確認して、背景の把握や当該児童生徒の心情の理解に役立てる。

第1カテゴリー		自己認識																①[自信と向上心 - 自己肯定感-]			
第2カテゴリー		◆【家族・友だち・先生のささえ】				友だちのささえ				先生のささえ				#							
質問番号	69	66	67	65	68	50	63	64	44	31	55	48	56	25	29	28	45	27	32		
28	生	77.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
16	女	71.0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
20	男	83.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
9	女	90.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
17	男	33.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
15	女	91.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
14	男	83.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
18	男	77.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
26	男	85.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
17	男	88.7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
27	男	72.8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
4	男	77.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
11	男	95.2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
16	女	96.8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
13	女	96.8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
10	男	72.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
13	男	72.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
3	女	40.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
28	女	77.4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
21	男	67.7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
25	女	96.8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
22	女	80.6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
8	男	83.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
8	男	75.8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
23	女	90.3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1	女	93.5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
1	男	83.9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
クラス 肯定率		96.3	70.3	77.7	85.1	88.9	92.5	92.6	88.8	81.4	85.1	95.2	66.6	66.6	66.6	70.3	74.0	96.3	66.7		
全国 肯定率		95.5	49.4	85.6	87.9	90.6	84.8	-	-	-	78.3	79.1	62.2	73.7	71.6	89.9	-	-	95.1	78.4	

図2 『i-check』個人の詳細な分析

(2) 検査活用リーダー研修プログラム」内容(概要)〔図3-1～図3-46 参照〕

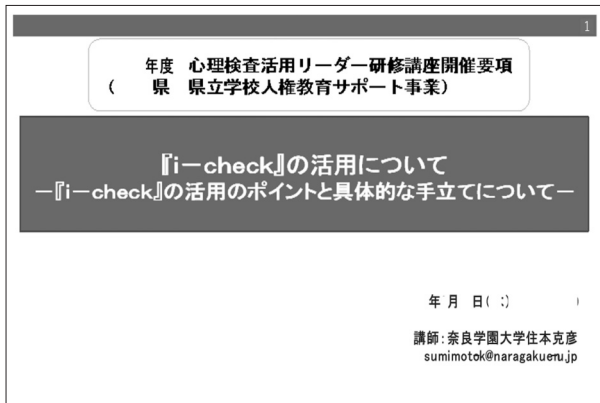


図 3-1

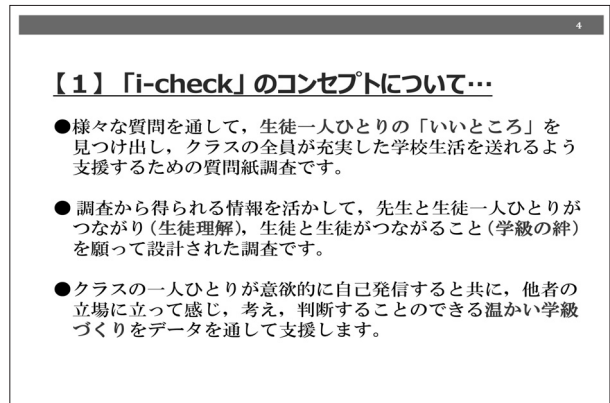


図 3-4

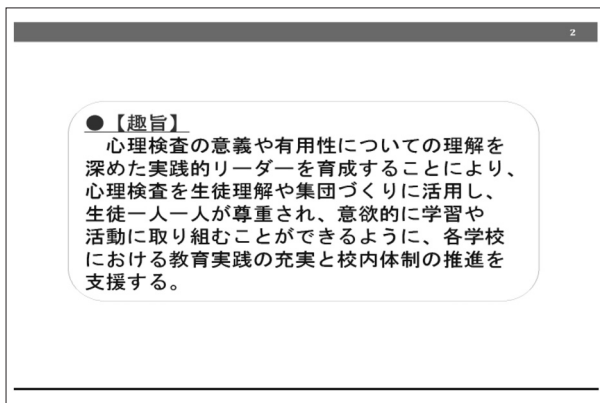


図 3-2

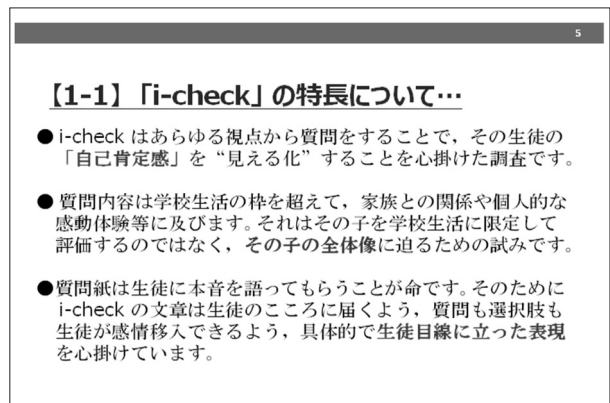


図 3-5

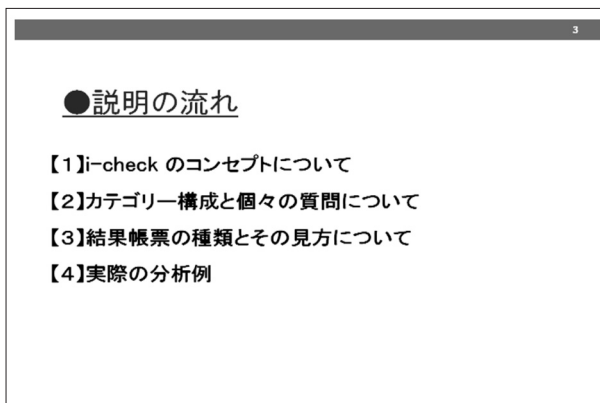


図 3-3

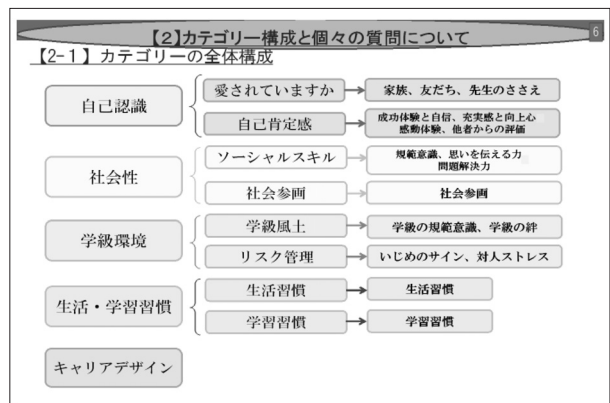


図 3-6

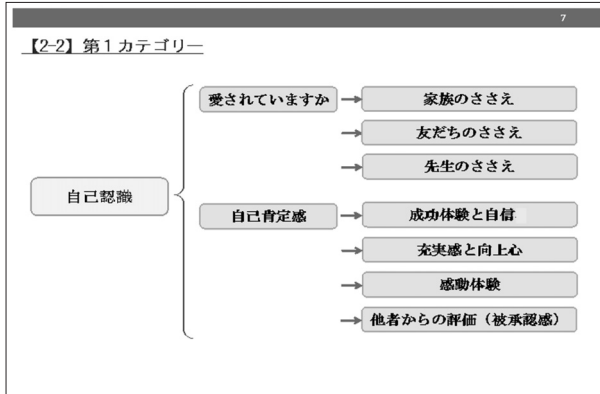


図 3-7

11

自己肯定感

感動体験

97) 夢中になった、勉強がおもしろいと思った、やる気が出た、という記憶に残っている授業がありますか。

- 1 たくさんある
- 2 いくつもある
- 3 あまり覚えていない
- 4 勉強がおもしろいと思ったことはない

99) 今までの人生で、心から感動したことがありますか。
(小説、映画、ドラマ、マンガ、体験、音楽、芸術、スポーツなど)

- 1 自分の人生を変えたものがある
- 2 物の見方・考え方を変えたものがある
- 3 ふつうに感動したものはある
- 4 特に思いつかない

図 3-11

8

家族の支え

44) 家の人は、あなたが努力して頑張ったとき、それをほめてくれますか、認めてくれますか。
(※家の人とは、今一緒に生活している人を指します)

- 1 とてもほめてくれる
- 2 ときどきほめてくれる
- 3 すぐに他の子とくらべる
- 4 あまり関心がなさそう

101) あなたは地球上でたった一人の、あなたのことを大切に思っている人々にとって、かけがえのない存在であるということを知っていますか。

- 1 それはよく分かっている
- 2 なんとなく分かっている
- 3 実感がない
- 4 とてもそうは思えない

図 3-8

12

自己肯定感

他者からの評価（承認欲求の充足）

21) あなたは、学校生活の中で、クラスのみならず注目されることがありますか。

- 1 よく注目される
- 2 まあまあ注目される
- 3 ほとんどない
- 4 まったくない

26) 学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友だちから頼りにされているんだな、と感じることがありますか。
(※授業とは、体育など全ての教科の授業を指します)

- 1 よくある
- 2 ときどきある
- 3 あまりない
- 4 まったくない

図 3-12

9

自己肯定感

成功体験と自信

13) 自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。

- 1 たくさんある
- 2 まあまあある
- 3 ほとんどない
- 4 まったくない

20) 自分には、いいところがあると思いますか。
(思いやり、明るさ、まとめる力、ひょうさんさ、責任感、努力、など)

- 1 ある
- 2 自分なりにあると思う
- 3 分からない
- 4 ひとつもない

98) 学校での日々の授業や活動の中で、自分は人間として成長したな、少し大人になれたなと、感じるがありますか。

- 1 強く感じることもある
- 2 少し感じることもある
- 3 思いつかない
- 4 一度もない

図 3-9

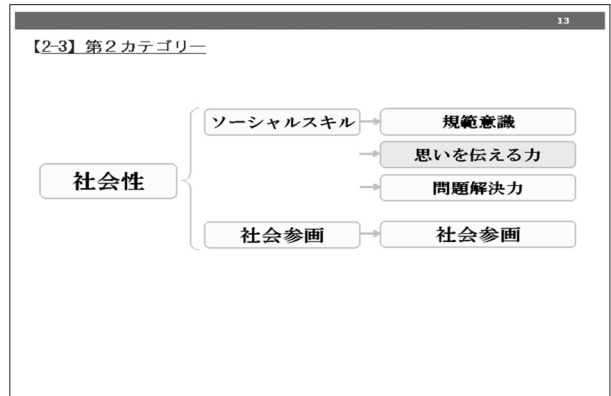


図 3-13

10

自己肯定感

充実感と向上心

11) 勉強やスポーツ、習い事、しゅみなどで、今がんばっていることがありますか。

- 1 とてもがんばっていることがある
- 2 いる程度ある
- 3 思いつかない
- 4 まったくない

12) 将来、あんな人になりたい、こんな事がしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がありますか。

- 1 はっきりした目標がある
- 2 いくつもある
- 3 思いつかない
- 4 まったくない

図 3-10

14

ソーシャルスキル

思いを伝える力 - 発信力

16) 自分がうれしかったとき、くやしかったとき、それを言葉やからだで表す方ですか。

- 1 思いつきで表す
- 2 表す方だと思う
- 3 ひかえめな方
- 4 ほとんど表さない

17) 友だちが成功したときはいっしょに喜び、失敗したときはいっしょにくやしがる、その思いを言葉やからだで伝える方ですか。

- 1 思いつきで伝える
- 2 伝える方だと思う
- 3 ひかえめな方
- 4 伝えられないタイプ

42) クラスの多くの人や仲のいい友だちと意見がちがっても、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができますか。

- 1 どのとうと主張できる
- 2 不安だけど主張する
- 3 主張できないと思う
- 4 主張できない

図 3-14

15

ソーシャルスキル

思いを伝える力ー思いやり

23) 話し合っているときや、友だちの相談にのっているときは、相手の話を最後まで聞いてから発言するよう、気をつけていますか。

- 1 いつも気をつけている
- 2 だいたい
- 3 口をきかずに済ませることが多い
- 4 あまり気にしていません

24) あなたは、友だちの表情などから今の心を思いやり、自分だったらどうしてほしいか、それをよく考えてから行動する方ですか。

- 1 いつもよく考えている
- 2 そうしているが失敗も多い
- 3 どちらかといえばマイペース
- 4 ほとんど気にかけていない

図 3-15

19

リスク管理

いじめのサイン

63) クラスや部活で、冷やかされたり、からかわれたり、いやなことをしつこく言われたりすることがありますか。

- 1 一度もない
- 2 前はあった
- 3 **なんども発生しない**
- 4 いまもある

65) LINE やツイッター上で仲間はずれにされたり、ひどいことを書かれたりして、傷ついたことがありますか。

- 1 一度もない
- 2 前はあった
- 3 **なんども発生しない**
- 4 いまもある

70) 同級生や上級生、他校の人などから、いやなことを無理やりさせられたり、ひどい乱暴を受けたりすることがありますか。

- 1 一度もない
- 2 前はあった
- 3 **なんども発生しない**
- 4 いまもある

図 3-19

16

【2-4】第3カテゴリー

学級環境

- 学級風土
 - 学級の規範意識
 - 学級の絆
- リスク管理
 - いじめのサイン
 - 対人ストレス

図 3-16

20

リスク管理

対人ストレス

57) 仲間はすれになるのが怖くて、本当は気がすまないのに、友だちの意見に合わせたり、一緒に行動したりすることがありますか。

- 1 無理に合わせることはしない
- 2 ときたまある
- 3 多い方がある
- 4 いつも合わせている

58) 仲のいい友だちから、自分がどう思われているか、つい気になってしまうことがありますか。

- 1 気になることはない
- 2 たまにある
- 3 ときたまある
- 4 いつも気になっている

59) 信じていた友だちから、思いもよらぬ言葉を聞かされたり、つらい態度をとられたりして、傷ついたことがありますか。

- 1 一度もない
- 2 けんかをして傷つくことはない
- 3 思ったけど仲直りした
- 4 **心を傷つけていることがある**

図 3-20

17

学級環境

学級の規範意識

31) あなたのクラスでは、みんながそうじ当番や係の仕事や、責任をもちていますか。

- 1 みんなできちんとしている
- 2 いちおう守っている
- 3 きれる人が少ない
- 4 きれる人が多い

32) あなたのクラスでは、みんなが先生の言うことを守っていますか。

- 1 みんながきちんとして守っている
- 2 いちおう守っている
- 3 あまり守っていない
- 4 ほとんど守っていない

33) クラスの人がらざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがありますか。

- 1 一度もない
- 2 ほとんどない
- 3 ときどきある
- 4 よくある

図 3-17

21

【2-5】第4カテゴリー

生活・学習習慣

- 生活習慣
- 学習習慣

図 3-21

18

学級環境

学級の絆

34) 球技大会やクラスの発表会などがあるとき、あなたのクラスは盛り上がり、盛り上がって盛り上がりますか。

- 1 盛り上がります
- 2 まあまあある
- 3 あまりない
- 4 盛り上がらない

35) クラスの中で、だれかが困っているとき、みんなで、その人を助けてあげよう、励ましてあげようとする雰囲気や、あなたのクラスにはありますか。

- 1 とてもある
- 2 まあまあある
- 3 あまりない
- 4 まったくない

40) 今のクラスが好きですか。

- 1 大好き
- 2 まあまあ好き
- 3 あまり好きではない
- 4 好きではない

図 3-18

22

生活・学習習慣

47) 最近、学校の勉強がむずかしくなったな、と感じることがありますか。

- 1 全部理解している
- 2 大體理解できている
- 3 分からないことが出てきた
- 4 **分からないままのことが多い**

87) インターネットを使ったトラブルで困った思いや怖い思いをしたことがありますか。

- 1 一度もない
- 2 ほとんどない
- 3 **たまどきある**
- 4 よくある

93) 平日（月～金）、1日どれくらいの時間、テレビやDVDを見た、ゲームをしますか。（※オンラインゲームも含みます）

- 1 全く見ない・しない
- 2 30分くらい
- 3 1時間くらい
- 4 2時間くらい
- 5 3時間くらい
- 6 **4時間以上**

図 3-22

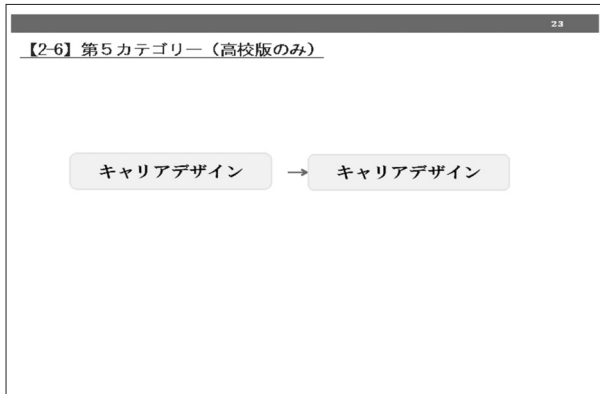


図 3-23

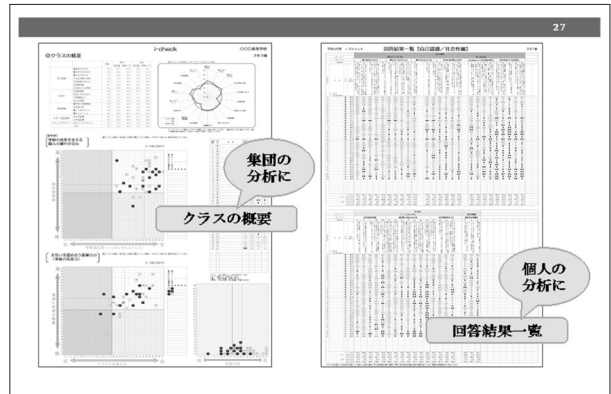


図 3-27

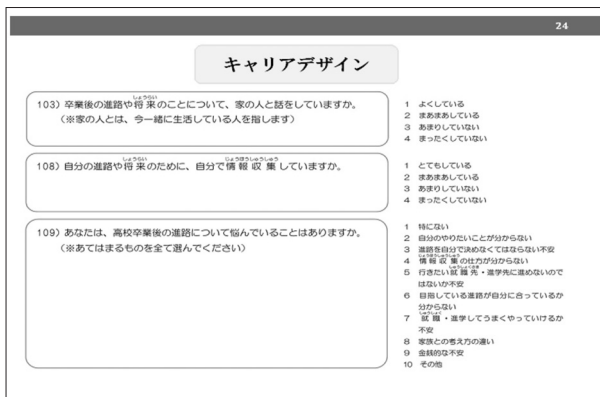


図 3-24



図 3-28



図 3-25

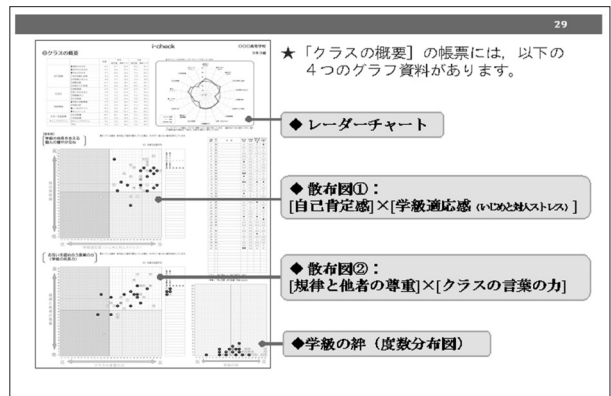


図 3-29

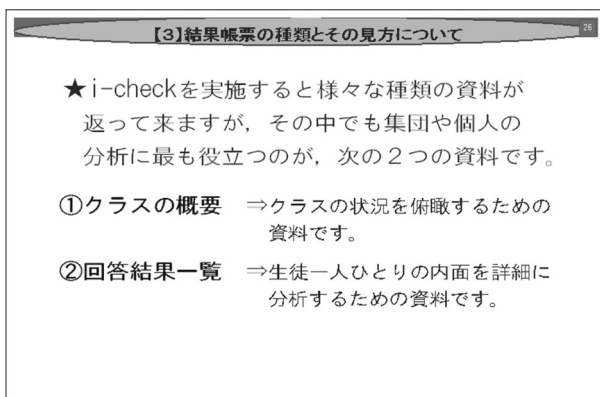


図 3-26

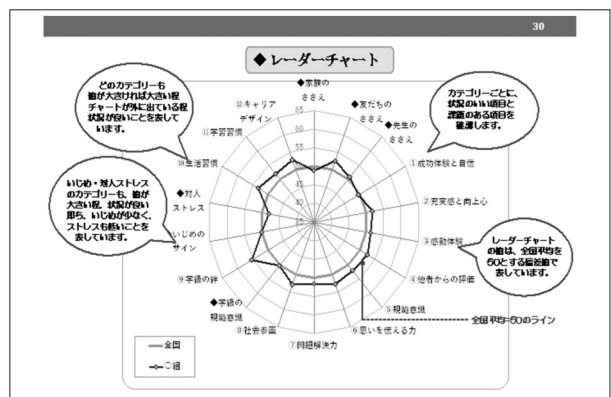


図 3-30

◆ [回答結果一覧] とは

★「回答結果一覧」は生徒一人ひとりが i-check の全質問に対し、どう回答したかを確認することで、彼らの現在の心の風景を詳細に分析することができる i-check の中で最も重要な資料です。

★「回答結果一覧」はカテゴリごとに以下3枚の資料で構成されています。
「自己認識/社会性編」
「学級環境/生活・学習習慣編」
「キャリアデザイン編」

図 3-39

◆ [クラスの概要] と [回答結果一覧] を使った分析の流れ ①

★散布図から特に自己肯定感の低い生徒を特定し、回答結果一覧で、具体的にどの質問にどう回答しているのかを確認し、生徒の気持ちを分析します。

図 3-43

◆ [回答結果一覧] の見方

★生徒のデータは出席番号順ではなく、男女に分けた上で、全質問に対する総合肯定率の高い順に降順に並べています。

★各質問に対する回答状況を示す記号の凡例は以下の通りです。

【記号の凡例】 ※4択の質問については、
○◎：(強い肯定) 最も望ましい回答
○?：(弱い肯定) 次に望ましい回答
▽?：(強い否定) 最も望まざる回答
▽▼：(強い否定) 特に配慮の要する回答

図 3-40

◆ [学級の絆] と [回答結果一覧] を使った分析の流れ

★【学級の絆】の度数分図から、クラスと距離を置いている生徒を特定し、回答結果一覧を確認し、クラスに対してどんな気持ちを抱いているのかを分析する。

図 3-44

◆ [回答結果一覧] の見方

★生徒のデータを横に追って見ることで、どのカテゴリが低いのか、どの質問に否定的に回答しているのかを詳細に確認することができます。(⇒個人の分析に役立する)

図 3-41

◆個人票<生徒用> あなたの未来のための i-CHECK シート

あなたの [チャート]
★グラフがどんな大きさになるように、がんばろう!

あなたの生活や学習習慣と、あなたへのメッセージ
※全国の生徒の行動傾向を参考に、自分の生活を振り返ってみよう。

(1) 1日の行動傾向(一週間)
(2) 好きな科目と苦手な科目
(3) 得意な科目と苦手な科目
(4) 休みの過ごし方(月ごと)
(5) 休日の過ごし方(月ごと)

生徒一人ひとりの
現状状況に応じて、
その子にメールを送る
コメントを入れています。

図 3-45

◆ [回答結果一覧] の見方

★また、データを横に追って見ることで、学級集団としてどのカテゴリが低いのか、どの質問に否定的な回答が集中しているのかを確認することができます。(⇒集団の分析に役立する)

【いじめ】は決して多くはない
【対人ストレス】が高い

図 3-42

◆個人票<先生用> あなたの未来のための シート

あなたの未来のための i-CHECK シート

自己認識・社会性

生活・学習習慣

図 3-46

V. 結果・考察

当該研修後、参加校全てが、満足した（4件法）と回答。表1は、いじめ問題対応研修会後の聞き取り調査結果（○当該研修プログラムを受講して、今後の教育実践に重要だと実感した事柄について調査 ○対象：当該プログラム受講の、A県立学校生徒指導・教育相談担当教職員等計20名。複数回答有。）である。

表1 研修会後の聞き取り調査結果

（対象：A県立学校生徒指導・教育相談担当教職員等、計20名。複数回答有。）

当該研修プログラムを受講して今後の教育実践に重要だと実感した事柄	件	%
教師の観察だけではなく、心理検査の必要性を実感した（心理検査の活用が不可欠）。	18	90.0
クラスの実態把握（学級経営）に有効だと認識できた。	18	90.0
学級の成員個々の実態が把握でき個人指導に活用できると実感できた。	18	90.0
各「学校」、「科」の実情に合った研修会（研修内容）実施を望む（専門家・講師の招聘が良かった）	18	90.0
心理検査「i-check」の特徴・見方が理解できた（研修内容を具体的に提示、事例提示、双方向型、専門的視点からの手立ての提案等が良かった）。	18	90.0
生徒一人一人を多面的に理解することの大切さ	18	90.0
生徒理解がいかに不十分だったかを反省し認識した。	17	85.0
「いじめのサイン」をキャッチすることの大切さ	17	85.0
「いじめのサイン」への早期対応の大切さ	17	85.0
各学期実施の結果比較等、年間複数実施により、教師の教育実践を振り返ることができる。	17	85.0
心理検査「i-check」分析後の実態把握のみならず、手立てまで、研修で吸収したい（次回の研修参加を希望）。	16	80.0
教師の観察だけでは不十分だと認識できた。	16	80.0
「1番目の悩み」「2番目の悩み」の解釈の仕方が理解できた。	16	80.0
「家族の支え」の項目の見方と対処の仕方の理解ができた。	16	80.0
「家族の支え」の項目の説明を受けて、家庭に居場所があることの重要性を再認識できた。	16	80.0
散布図で「いじめ」や「疎外感」の学級の実態が把握できた。	15	75.0
「いじめのサイン」と「対人ストレス」がリンクしていることを理解できた。	14	70.0
「友達の手助け」の見方と人間関係づくりの手立ての実際を理解できた	14	70.0
心理検査「i-check」は、学年での情報共有の基盤となると実感した。	14	70.0
心理検査「i-check」は、生徒指導部会での情報共有の基盤となると実感した。	14	70.0
「個人票：生徒用資料」「個人票：教師用資料」の有用性・活用法について理解できた。	14	70.0
心理検査「i-check」は、教育相談部会での情報共有の基盤となると実感した。	12	60.0
各学校の実情を踏まえたプログラム内容であることが大切。	12	60.0
関連研修会（生徒指導・教育相談・学級経営等）の定期的実施を望む。	12	60.0
「自分自身の存在のかけがえのなさ」が実感できていない生徒の多さ	12	60.0
いじめ早期発見・早期対応に対しての、心理検査「i-check」活用の重要性	12	60.0
自己肯定感の低い生徒の多さを再認識できた。	12	60.0
自己肯定感の低い生徒への手立てを理解できた。	12	60.0
「家の人」が悩みに上がる場合、生徒の力では如何ともしがたいことが多いことを理解できた。	11	55.0
「キャリアデザイン」の解釈の仕方と対応の仕方が理解できた。	11	55.0
生徒指導や教育相談活動においての、チーム支援や組織対応の大切さ	11	55.0
「先生の手助け」の項目の見方と対処の仕方の理解ができた。	10	50.0
心理検査研修会においての専門家を招いての研修会開催の大切さ	10	50.0
構成的グループ・エンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング等の開発的カウンセリング技法の研修を受けたい。	10	50.0
「学級経営」の効果的な進め方の研修を希望	10	50.0
専門家の適切な指導助言が受けられる。	10	50.0
「ネットいじめ」に対して、情報モラル教育推進の重要性	7	35.0
受検そのものが児童生徒にとっての自己内対話になっていた。	7	35.0
対象生徒に合ったプログラム内容であることが大切。	6	30.0
心理検査「i-check」を活用した事例研修会の開催を希望する。	6	30.0
「いのちの教育」の研修（自己肯定感を高める手立て手法や「自分自身の存在のかけがえのなさ」を実感させる手立て等）を受講したい。	6	30.0
コロナ禍を踏まえた教育プログラム開発を望む。	5	25.0
命を大切にする視点に立たないといじめは無くならない。	5	25.0
保護者と関係性を築くことの大切さと難しさを痛感した。	5	25.0
「ネットいじめ」に対して、人権教育の推進の重要性を痛感した。	5	25.0
「保護者との連携」のテーマの研修を受けたい。	3	15.0
その他	4	20.0

「心理検査『i-check』の特徴・見方が理解できた（研修内容が具体的、事例が豊富、双方向、今後活用へ等）（90.0%）等から、本研修のねらいはほぼ達成されていた。

「教師の観察だけではなく、心理検査の必要性を実感した。（心理検査の活用が不可欠）」（90.0%）、「クラスの実態把握（学級経営）に有効だと認識できた。」（90.0%）、「学級の成員個々の実態が把握でき個人指導に活用できると実感できた。」（90.0%）、「生徒理解がいかに不十分だったかを反省し認識した。」（85.0%）等の意見が多く、生徒指導や学級経営において、心理検査活用の効果、その重要性が実感されていた。

「各『学校』、『科』の実情に合った研修会実施を望む（専門家・講師の招聘）」（90.0%）、「各学校の実情を踏まえたプログラム内容であることが大切。」（60.0%）、「専門家の適切な指導助言が受けられる。」（50.0%）、「対象生徒に合ったプログラム内容であることが大切。」（30.0%）等、概論の研修よりも、専門家を招聘しての学校や各科に即した研修への要望が強いと言える。

また、「生徒一人一人を多面的に理解することの大切さ」（90.0%）、「各学期実施の結果比較等、年間複数実施により、教師の教育実践を振り返ることができる。」（85.0%）、「教師の観察だけでは不十分だと認識できた。」（80.0%）、「心理検査『i-check』は、学年での情報共有の基盤となると実感した。」（70.0%）、「心理検査『i-check』は、生徒指導部会での情報共有の基盤となると実感した。」（70.0%）、「心理検査『i-check』は、教育相談部会での情報共有の基盤となると実感した。」（60.0%）、「心理検査研修会においての専門家を招いての研修会開催の大切さ」（55.0%）等、心理検査に関する研修実施のポイントとなる項目も多かった。

また、「『いじめのサイン』をキャッチすることの大切さ」（85.0%）、「『いじめのサイン』への早期対応の大切さ」（85.0%）、「散布図で『いじめ』や『疎外感』の学級の実態が把握できた。」（75.0%）、「『いじめのサイン』と『対人ストレス』がリンクしていることを理解できた。」（70.0%）、「『ネットいじめ』に対して、情報モラル教育推進の重要性」（35.0%）、「命を大切に作る視点に立たないといじめは無くならない。」（30.0%）、「『ネットいじめ』に対して、人権教育の推進の重要性を痛感した。」（30.0%）等、いじめの未然防止・早期発見・早期対応等に関する回答も多かった。

さらに、「心理検査『i-check』分析後の実態把握のみならず、手立てまで、研修で吸収したい（次回の研修参加を希望。）」（80.0%）、「関連研修会（生徒指導・教育相談・学級経営等）の定期的実施を望む。」（60.0%）、「構成的グループ・エンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング等の開発的カウンセリング技法の研修を受けたい。」（50.0%）、「『学級経営』の効果的な進め方の研修を希望」（50.0%）、「心理検査『i-check』を活用した事例研修会の開催を希望する。」（30.0%）、「『いのちの教育』の研修（自己肯定感を高める手立て手法や「自分自身の存在のかけがえのなさ」を実感させる手立て等）を受講したい。（30.0%）、「『保護者との連携』のテーマの研修を受けたい。」（15.0%）等、当該研修を受けることによって、関連研修実施を望む声も多かった。

その他、「『1番目の悩み』『2番目の悩み』の解釈の仕方が理解できた。」（80.0%）、「『家族の支え』の項目の見方と対処の仕方の理解ができた。」（80.0%）、「『家族の支え』の項目の説明を受けて、家庭に居場所があることの重要性を再認識できた。」（80.0%）、「『いじめのサイン』と『対人ストレス』がリンクしていることを理解できた。」（70.0%）、「『友達支え』の見方と人間関係づくりの手立ての実際を理解できた。」（70.0%）、「『個人票：生徒用資料』『個人票：教師用資料』の有用性・活用法について理解できた。」（70.0%）、「『家の人』が悩みに上がる場合、生徒の力では如何ともしがたいことが多いことを理解できた。」（55.0%）、「『キャリアデザイン』の解釈の仕方と対応の仕方が理解できた。」（55.0%）、「『先生の支え』の項目の見方と対処の仕方の理解ができた。」（50.0%）等、心理検査『i-check』に関する見方やその解釈の仕方の理解がかなり進んだようであった。

「『いのちの教育』の研修（自己肯定感を高める手立て手法や『自分自身の存在のかけがえのなさ』を実感させ

る手立て等)を受講したい。」(30.0%)や『『自分自身の存在のかけがえのなさ』が実感できていない生徒の多さ』(60.0%)、「自己肯定感の低い生徒の多さを再認識できた。」(60.0%)等については、青年期前期の子ども達に向き合う際の教師自身の「いのちの教育」に関わる専門性が問われる点でもあろう。

以上のことから、概ね当該研修会の趣旨やねらいは達成できたように考えるが、今後コロナ禍の実態を踏まえ、今までのような、参加型・体験型の研修形式を取ることが難しくなったり、各校の実態に応じた研修内容にするための十分な事前打ち合わせ時間が取れなかったりするなど、いろいろと制約はあるが、これらの結果を踏まえ、プログラム実施者が、研修実施前に、各校の課題を明確に把握しておいたり、課題に対する適切な手立てを提示したりする等、当該研修の一層の改善が望まれる。

VI. 今後の展望

本稿では、筆者監修が、A県・県立学校人権教育サポート事業として講師を務めた際、「心理検査活用リーダー研修プログラム」(【プログラム構成】①『i-check』のコンセプトについて ②カテゴリー構成と個々の質問について ③結果帳票の種類とその見方について ④実際の分析例)を実施。当該プログラム参加者への聞き取り調査後、以下の点が示唆された。(1)教師の観察だけではなく、心理検査の必要性を実感した。(心理検査の活用が不可欠) (2)クラスの実態把握(学級経営)に有効 (3)学級の成員個々の実態が把握でき個人指導に活用できる (4)各「学校」、「科」の実情に合った研修会(研修内容)実施を望む(専門家・講師の招聘) (5)心理検査『i-check』の特徴・見方が理解できた(研修内容を具体的に提示、事例提示、双方向型、専門的視点からの手立ての提案等) (6)生徒一人一人を多面的に理解することの大切さ 等、以上の点が当該プログラムの有効性として確認された。

ただ、コロナ禍の現況を踏まえ、当該研修会実施の在り方等についての議論もあり、(1)コロナ禍における生徒の内面への影響が『i-check』結果にどのような影響を与えたかの検証 (2)効果的オンライン方式研修実施の検討 (3)各「学校」、「科」の実情に合った研修内容の提示の検討(専門家による解説・手立ての提案等) (4)より系統立てた研修(『いのちの教育』の研修会、カウンセリング研修会、事例研修会、生徒指導や教育相談、学級経営等に関する研修会等の定期的実施への要望有り)の在り方の検討 等を重ね、今後、一層充実した「心理検査活用リーダー研修プログラム」を開発し、教育現場の生徒指導や教育相談、学級経営等、教育実践を効果的に進める一助としたい。

謝辞

本稿執筆にあたり、調査に御協力頂いたA県教育委員会の関係の皆様、研修会参加の先生方、関係の皆様方に衷心より御礼を申し上げます。

文献

- ・兵庫県教育委員会：『命の大切さ』を実感させる教育への提言 2007.
www.hyogo-c.ed.jp/~inochi/pdf/INOCHI0703.pdf
- ・兵庫県心の教育総合センター：「学校における心の危機対応実践ハンドブック」2002.
- ・梶田叡一：「自己を生きるという意識」金子書房 2008.
- ・梶田叡一：「人間教育のために」金子書房 2016.
- ・梶田叡一：「〈いのち〉の教育のために」金子書房 2018.
- ・梶田叡一・住本克彦(編)：「(令和2年版)総合質問紙：i-check：アイ・チェック」東京書籍 2020.
- ・國分康孝・國分久子(監修)住本克彦(編)：「エンカウンターでいじめ対応が変わる」図書文化社 2019.

- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター：「いじめ追跡調査 2010-2012」2013.
- ・森田洋司・清永賢二：「いじめ－教室の病い」金子書房 2004.
- ・文部科学省：「生徒指導提要」教育図書 2010.
- ・文部科学省：「子供の自殺が起きたときの緊急対応の手引き」2010.
- ・文部科学省：「『ネット上のいじめ』に関する対応マニュアル・事例集（学校・教員向け）」2010.
- ・文部科学省：「いじめ、学校安全等に関する総合的な取組方針－子どもの『命』を守るために－」2012.
- ・文部科学省：「いじめ防止対策推進法」2013.
- ・文部科学省：「いじめ防止対策推進法の公布について」（通知）2013.
- ・文部科学省：「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」2016.
- ・文部科学省：「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」2017.
- ・阪根健二：「生徒指導のリスクマネジメント」学事出版 2020.
- ・坂田仰：「増補版いじめ防止対策推進法全条文と解説」学事出版 2018.
- ・住本克彦：「『命の大切さ』を実感させる教育への提言：『教員研修』兵庫県立教育研修所心の教育総合センター 2009.
- ・住本克彦：「エンカウンターで不登校対応が変わる」図書文化社 2010.
- ・住本克彦：「いじめ防止教育プログラム」の開発研究－総合質問紙『i-check』を活用した「いじめ防止教育プログラム」環太平洋大学研究紀要 第8号 100-113 2014.
- ・住本克彦：「『いのちの教育』カリキュラム開発への取組－小・中・高校生を対象にした『いのちの教育』に関する質問紙調査結果をとおして－科学研究費助成事業・基盤研究（B）課題番号 24330254（研究代表者：梶田叡一 2012～2014）『いのちの教育カリキュラムモデルの開発的研究』研究成果報告書『いのちの教育カリキュラムモデルの開発と実践』27-40 2015.
- ・住本克彦：「命の教育」の一環としての『いじめ防止教育プログラム』開発に関する一考察－文部科学省のいじめ防止対策事業を踏まえて－新見公立大学 研究紀要 第39巻 71-78 2018.
- ・住本克彦：「『生徒指導』『教育相談』における“S-7 step 法”活用の有効性の検討」新見公立大学 紀要 第38巻第1号 65-70 2018.
- ・住本克彦：「いじめ問題にどう立ち向かうか」岡山県教育委員会教育時報 巻頭論文 平成30年4月号 4-7 2018.
- ・住本克彦：「『いのちの教育』のカリキュラム開発のポイントを探る」健学社 心とからだの健康 私の提言（巻頭論文）第22巻第3号 76-82 2018.
- ・住本克彦：「プロとしての保育者、魅力的な保育者」『Professionalをめざす保育者論』44-48 教育情報出版 2019.
- ・住本克彦：「『いじめ防止』は『いのちの教育』の視点から向き合う」健学社 心とからだの健康 私の提言（巻頭論文）p.9 第23巻第12号 2019.
- ・住本克彦：「心理検査活用リーダー研修プログラムの開発の試み－県立学校教職員対象心理検査活用リーダー研修講座（『i-check』の活用）実施を踏まえて－」令和元年度 研究紀要 第3巻（新見公立大学）25-30 二鶴堂 2020.
- ・住本克彦監修・編著：『令和3年版 i-check』東京書籍 2021.
- ・住本克彦：「総合質問紙調査『i-check』の活用による、子どもたちの『生きる力』の育成」『自分発見〈i-check〉ハンドブックⅢ』東京書籍 2021.